



第18話

梅は咲いたがサクラはまだ？

「大学受験も終わり、あとは合格発表を待つだけになったある日曜日。じいちゃんと呼ばれた。」
 「おーい大。おきてるかー？ 一緒に大倉公園に行くから早く準備してきなさい」
 大倉公園か…受験勉強で出掛けることもなかったし、じいちゃんと出掛けるのもいいかもな。
 「それにしてもなんで大倉公園なの？」
 「ちょうど今、大倉公園で盆梅展っ

ていうのをやっているな。わしの友達が文化協会の盆栽会におつて、自信作を出品したから見に来てくっって言われてな」
 じいちゃんって結構交友関係広いからな。
 「ところで大は大倉公園のいわれを知ってるか？」
 「えっ、何それ？」
 「大府に住んでいてそんなことも知らないのか！ 情けないのう。よし、じいちゃんが教えてやろう。この土

地には日本陶器(榑)、現在の(榑)ノリタケカンパニーリミテドの創設者、大倉和親氏の別邸があつての、昭和2年には賀陽宮恒憲皇が滞在されたといわれているそれは由緒正しいものなんだ。それで大倉公園と呼ばれているんじゃない。入り口のかやぶき屋根の門は当時のもので大変価値のあるものなんじゃよ」
 「へー、全然知らなかった」
 かやぶき屋根の門をくぐり、大倉公園に入ると来場者に振るまわれていた甘酒の香りがした。庭園にある木々は冬枯れしていて寂しいけれど、盆梅展のにぎわいが一足先に春を運んでいた。

「展示会場は二カ所あったのですが、第一展示会場に入った。すると、いきなり立派な紅梅が出迎えてくれた。」
 「この梅、めっちゃでかいな！ これも盆梅なんだ」
 「それは樹齢300年くらいかの」
 「えっ、ま、まさか」
 「当たり前じゃろ？ それが盆梅の奥深さだよ。何代にも受け継がれていく歴史があるんじゃ。例えばこの盆梅展の期間中に梅が最も美しく見えるように鉢を日陰において開花を遅らせるとるんじゃぞ。とにかく手をかけとるんじゃ」
 「でもこの梅は蕾が多いよ？」
 「ははっ！ 大にはまだ蕾の良さがわからんか。咲いた花だけが美しいわけじゃないんだ」
 「ふうーん…じゃあこの盆梅が置いてある台もなんかこだわりがあるの？」
 「もっちゃん。より美しく見えるように盆梅とのバランスを考えて選んでいるんじゃ」
 第二展示会場では琴と尺八の演奏が行われていた。
 「ここは例の旧大倉和親氏の別荘離れだ。美しい琴と尺八の音色が梅の花の美しさをより引き立てるのう」
 ……………
 「展示会場を出ると…まさか！」
 「あ、まーくん？」
 「先輩じゃないですか！ こんなところで会うなんてすごい偶然ですね！」
 「あずまと桃花か！ 俺はじいちゃんと盆梅展を見に来たんだよ。おまえらは？」
 「私たちは歴史民俗資料館にひな飾りを見に来たの。大学はもう春休みだからしばらく実家にいるよ」
 大学生か…。おれも4月からは大学生…？ 梅もいけど早く「サクラ」咲いて欲しいよな！

〔4月1日号へ続く〕



企画展 歴史民俗資料館ひなまつりは3月10日回まで開催中！

「えっ、ま、まさか」
 「当たり前じゃろ？ それが盆梅の奥深さだよ。何代にも受け継がれていく歴史があるんじゃ。例えばこの盆梅展の期間中に梅が最も美しく見えるように鉢を日陰において開花を遅らせるとるんじゃぞ。とにかく手をかけとるんじゃ」
 「でもこの梅は蕾が多いよ？」
 「ははっ！ 大にはまだ蕾の良さがわからんか。咲いた花だけが美しいわけじゃないんだ」

文：大府東高校一年 金田千絢
 絵：大府東高校二年 中村有里
 同一年 加藤梨瑚



見事な梅の花や香りを楽しむ 大府盆梅展

10～17日、大倉公園で大府盆梅展が開催され、多くの来場者が訪れました。この催しは、市観光協会が主催で、会場には日本盆栽協会東知多支部と市文化協会大府市盆栽会の会員が丹精込めて育てた紅梅や白梅など、盆梅約70席を展示。中には樹齢約300年の盆梅も展示され、来場者は見事な枝ぶりりと淡く上品な梅の香りを堪能しました。



▲樹齢約300年の盆梅

▼この日提供された「とろーりチーズのお野菜ミルフィーユ」を含むランチ



自慢の料理 ここにあり！

ビストロおぶちゃん受賞メニューがこらび庵で提供

2日、子ども料理コンクール「ビストロおぶちゃん」で、鈴木いちかさん・祐子さん親子が考案し、こらび庵賞に選ばれた料理「とろーりチーズのお野菜ミルフィーユ」が、コラビア内「こらび庵」のランチメニューとして提供されました。この日、調理を担当したのは、BLOSSOMで、用意した28食は前日までに予約で完売し、ランチを食べたお客さんは「野菜が多く取れておいしい」と感想を話しました。

▼おおぶ男女共同参画アピールが宣言されました



男女共同参画について考える

あなたとわたしのつどい

2日、愛三文化会館（勤労文化会館）で「あなたとわたしのつどい」が開催され、多くの市民が男女共同参画について考えました。前半は「おおぶ花まつり」と「知多半島女性ネットワーク」の活動発表とおおぶ男女共同参画アピール宣言が行われた後、大阪大学大学院教授の石蔵文信さんによる夫婦関係についての講演が行われました。後半では、家族を失った少年の成長を描いた映画「星めぐりの町」が上映されました。

協働からまちづくりへ

市民と市長のまちトーク

16日、「みんなで話そう～市民と市長のまちトーク～」が市役所で開催されました。今回は、女性の感性などを大切にするため、参加者を女性に限定。30～60代の市民16人が「私たちが紡ぐ！ 安心安全なまち・おおぶ」をテーマに自由に話し合い、10年後の大府市の姿を伝える未来新聞を制作しました。新聞には、世代間交流などによる暮らしやすいまち全国1位など、安心安全なまちになるためのアイデアなどが発表されました。



▲グループで未来新聞の内容を話し合う参加者



▼災害時における下水道管路等施設復旧支援協力協定が締結されました



知多半島初！ 災害時すぐ下水道復旧へ

日本下水道管路管理業協会と災害時における 下水道管路等施設の復旧支援協力協定締結

12日、(公社)日本下水道管路管理業協会中部支部愛知県支部との災害時における下水道管路等施設の復旧支援協力に関する協定が締結されました。この協定締結により、自然災害時に市が管理する下水路やマンホールなどの下水道施設が被災した場合に、必要な復旧支援業務を市が当協会に要請することができるようになりました。

▼市の公用車に張られた「小さな御守り 大きなみまもり」ステッカー



公用車で市民の安心安全を提供

ドライブレコーダーに記録された画像の提供に関する協定締結

8日、市、東海警察署、市商工会議所は「ドライブレコーダーに記録された画像の提供に関する協定」を締結しました。この協定締結により、市や市商工会議所の会員事業所が保有する車に付いているドライブレコーダーに記録された画像を警察の求めに応じて提供し、捜査のために活用します。また、市や市商工会議所の会員事業所の車には「小さな御守り 大きなみまもり」と記した防犯啓発ステッカーが張られています。



私はオーストラリアにいたときから日本語を勉強していましたが、成人式のことはテキストに載っていませんでした。オーストラリアでは20歳を祝う習慣がないので、成人式はありません。私は、以前日本で働いていたことがあります。市の国際交流員になって、初めて成人式があることを知り、今回は記念すべき初取材をしました。

当日会場に着くと、たくさんの華麗で美しい振袖姿の女性が目に留まり、興奮しました。本人や家族の方がいろいろな準備をしてこの日を迎えていることを想像すると、成人式がとても意味のある大切な行事だということが分かります。



▲着付けを学び、自分で振袖を着たと話す外国人成人の親子

式典では、迫力のある和太鼓の演奏があり、日本らしさを感じました。

成人式で特に印象に残ったのは、振袖を着た2人の外国人女性の姿でした。何となく日本人しか参加しない式だと思っていたのですが、彼女たちは、同級生との会話を楽しんだり、親と一緒に写真を撮ったりするなど成人式を楽しんでいました。市内で、多文化共生を実感し、心強く感じる一場面でした。

成人式は、神社仏閣や茶道のように観光として見たり体験したりできるものではないので、その存在を知らない外国人が多いと思います。今後、市では外国人が増えていくことが予想されますが、日本の文化や習慣を知り、一緒に参加することで、多文化共生が進んでいくといいですね。

料金受取人払郵便

大府郵便局
承認

747

差出有効期限
平成31年4月30日まで
(切手を貼らずに
お出しください)

郵便はがき

4 7 4 8 7 9 0

〈受取人〉
大府市役所
広報広聴課 行



広報おおぶ「みんなの声」専用はがき

年齢 / 歳 性別 / 男・女

広報おおぶの今後の編集や企画に生かしていきたいと思っています。
ご意見をお聞かせください。

広報広聴課 ☎(45)6214

「みんなの声」使い方

- 1 広報紙から切り取ってください。
- 2 アンケート欄に記入してください。
- 3 半分に折り内側全面をのり付けてください。
- 4 ポストに投函してください。

Q1 今回の広報おおぶで、文字・色・構成などについて、見やすいと思った記事、見にくいと思った記事とその理由をお聞かせください。(下表の番号を記入してください。複数回答可)

見やすい() 見にくい()

理由

Q2 今回の広報おおぶで、面白い・役に立った記事、そうでなかった記事とその理由をお聞かせください。(下表の番号を記入してください。複数回答可)

面白い・役に立った()
そうでなかった()

理由

Q3 今後取り上げてほしい企画や広報おおぶへのご意見・ご要望をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。 1161

破線に沿って切りとり、半分に折り、内側全面をのり付けて投函してください。

人間、やる気になれば何でもできる やろうとすることが大事！



深谷昭和さん・きとさん

(85歳・82歳、森岡町)

挙式：昭和33年10月10日
(寄り添い60年)

◆出会いは。

【きと】見合い結婚で、豊川から大府に嫁いできました。

◆お互いの性格は。

【昭和】私は慌てん坊で、お母さんはゆっくり。

【きと】だから付いていくのがエライんです(笑)。

◆若いころの仕事は。

【きと】中学を出てから、蒲郡の紡績工場に泊まり込みで働きました。

【昭和】いろいろやったけど、一番面白かったのは独身時代の洋服行商。仲間と3人で3日ごとに移動して回り、東北から北陸まで日本海沿いの町にはほとんど出向きました。多くの一期一会がありましたね。結婚後に一家で始めた酪農は、最盛期には大府で5本の指に入る規模だったんですよ。

◆趣味など普段の過ごし方は。

【昭和】カラオケ。時には西尾の一色まで出向くほど、いろんな土地に何十店舗も行きつけの店があります。

【きと】料理が好きです。普段はテレビを見たり近くを散歩したりして過ごし、時々農協婦人会で神社の掃除や食事会などに出向きます。

◆これまでを振り返って。

【きと】お父さんは、こう見えて心配りが良いので何とか付いてくれました(笑)。いろんな仕事を経験してきたことが生きているのだらうね。

【昭和】年を食えば食うほど、お互いの心がよく分かって仲良くなっています。頼れるのは相方だけだからね。



3歳以下のおおぶキッズをご紹介！

掲載希望の方は広報広聴課へご連絡ください。

広報広聴課 ☎(45)6214



菊池 凜さん

平成29年12月21日生まれ
電太郎さん(父) 友香さん(母)

ダンスが大好きなおてんばな女の子。最近1人で立てるようになり、歩き出すのが楽しみです。いとこのお兄ちゃんや結希那ちゃん(右写真)ときょうだいのように仲良く遊んでいます。のびのび元気に育ててね！



森 結希那さん

平成30年3月18日生まれ
政直さん(父) 好美さん(母)

お兄ちゃんやいとこの凜ちゃん(左写真)が大好きな結希那ちゃん。そのすてきな笑顔でいつもみんなを癒やしてくれます♪ 食べることや絵本が大好きです。これからも、好きなことしてたくさん遊ぼうね。

広報おおぶの紙面を飾ってくださる方を大募集！

募集しているのは、「金婚カンコン」「みんなにごあいさつ」「表紙などの読者モデル」。

掲載された方には、掲載した写真を、広報おおぶの表紙風に加工してプレゼント。記念に1枚いかがですか？
詳細は市ホームページをご覧ください。

問い合わせ 広報広聴課 ☎(45)6214 ✉koho-obu@ma.medias.ne.jp



アイデアは、生活の中で無意識に蓄積している

福永 真也さんしんや(高丘町在住)

第53回北日本文学賞を、応募作『1063編の中から』種を蒔く人』で受賞した福永真也さん。受賞までの11年間・延べ10回の挑戦を「1年目が1番自信満々でした。続けるうちに『絶対的な自信』は薄らいでいったけど、代わりに自身の作品を客観視できるようになっていったことが大きいです」と振り返り、『文学について何も分かっていなかった』ということが分かってきました」とも話します。

福永さんと小説との出会いは中学生のとき。祖父母宅で手に取った小説を『面白い』と感じたことに始まります。時は流れて26歳、「自分が面白いと思えるものを、自分自身で書いてみたい」との思いで筆を執ったことから、執筆活動は読書の延長線上にあったと話します。それからというもの、飲食業で働きながら執筆活動を続けてきました。

福永さんは、好きな小説のジャンルについて「純文学が自分になじんでいて、読むにも書くにも1番面白い。アイデアは生活の中で無意識に蓄積し、常に頭の中にあります」と言います。

執筆活動の苦勞については「昔の方が勢いよく書けたのに」と思うことはあります。変にテクニクがついて慎重になり、『どつぽ』にはまることもあります」と話す一方、やめたいと思ったことは一度もないそうです。そんな福永さんは、小説に接するひとときを「自分の生活の中で唯一没頭する時間。小説には、日常を忘れるほどの魔力があります」と語ります。

今後の目標について「1冊でいいので本を編みたい。読み手の方が私と同じく日常から離れられ、そして読後に少し尾を引くぐらいに感じる作品にできたら」と話す福永さんは、小説とは全く異なるところで出会ったと言う介護の仕事に就く夢も見据えています。執筆活動で培った人間観察・理解力、推理力を介護に生かせる可能性を感じながら、「これからも自分らしく楽しく執筆活動を続けることで、近い将来は、相手の気持ちを察し理解でき、『頼まれたことの向こう側』の見える介護福祉士になりたいです」と素敵な抱負を語ります。



◀福永さんの受賞作『種を蒔く人』は北日本新聞社公式サイトから

まだまだ寒い日が続きますね。我が家では、この広報おぶの編集をしているさなか、家族が立て続けにインフルエンザにかかり、公私ともにバタバタでした。みんな予防接種を打っていたのですが…。インフルエンザには、予防接種の他に、消毒・手洗い・換気などで予防もできますが、今年かかったので、来年は勘弁してください(笑)(D)